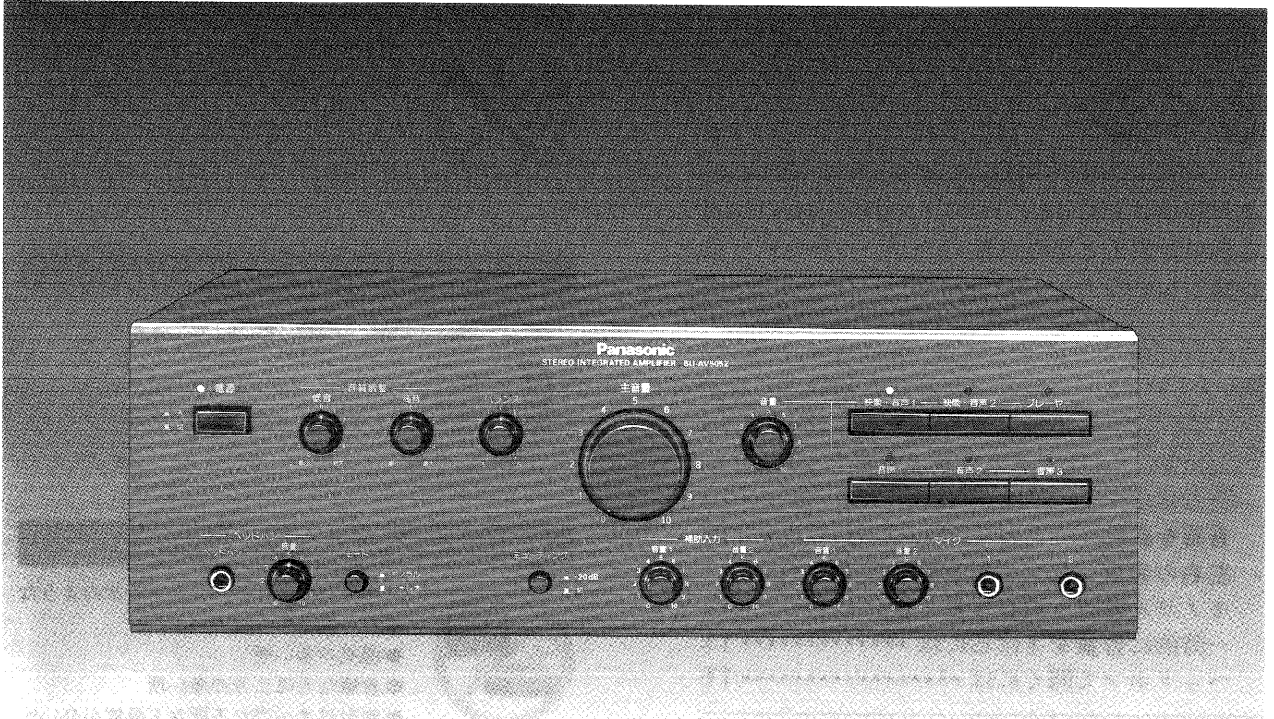


Panasonic®

ステレオインテグレートッドアンプ

品番 SU-AV505Z

取扱説明書



上手に使って上手に節電

保証書別添付

このたびはステレオインテグレートッドアンプをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- この説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと大切に保存し、必要なときお読みください。
- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめて、販売店からお受け取りください。

RQT2760-T

本機の特長

本機は、オーディオソースや映像ソースを再生しながらマイクミキシングができるインテグレートッドアンブレです。

全体の音量を調整する主音量の他、ソース音声や、マイク音声、補助入力音声さらにヘッドホン出力のそれぞれが独立した音量調整を持ち、きめ細やかなミキシング調整が可能です。

また、プリ出力、メイン入力端子にグラフィックイコライザーを接続することで、場所の特性に応じた音場補正を行うことができます。

もくじ

必ずお守りください	2
各部のなまえとはたらき	3
接続のしかた	4

操作のしかた	9
ソースの音や映像を出すには	9
マイクミキシングをするには	10
B.G.V(バック・グラウンド・ビジュアル)を行うには	10
音質を調整するには	11
左右の音量バランスを調整するには	11
モノラル機器を再生するときは	11
一時的に音量を下げるには	11
ヘッドホンで聞くには	11

ブロックダイアグラム	12
定 格	13
故障かな!?	14
アフターサービスについて	14
お手入れ	15

⚠️ 必ずお守りください

電源は、AC(交流) 100Vで



電源コードは正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると危険です。

- プラグを持つ
- ぬれた手でさわらない
- 重いものを載せない
- 無理に曲げない

加工・改造・異物の挿入はしない



感電や故障の原因になります。特にお子様にはご注意ください。

水・薬品はかからないように



引火・火災や感電の恐れがあります。また、本機の上に可燃性ガスの入ったヘアスプレーなどを置かないでください。

設置は安定した、風通しのよい所に



故障の原因になりますので、次のような所は、避けてください。

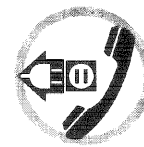
- 湿気の多い所
- 倉庫などほこりの多い所
- 直射日光が当たる所など温度が高い所

長期間使用しないときは



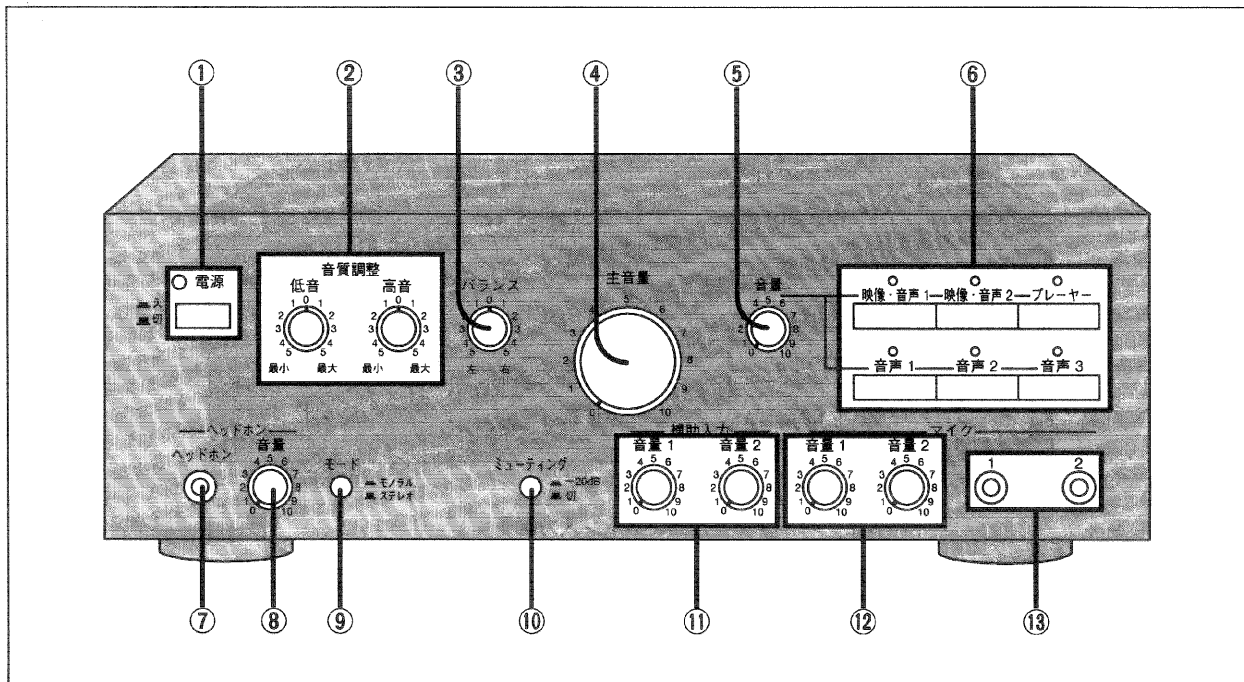
思わぬ事故を避けるため、電源コードをコンセントから抜いておいてください。

万一、故障が起きたら



電源コードを抜き、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

各部のなまえとはたらき

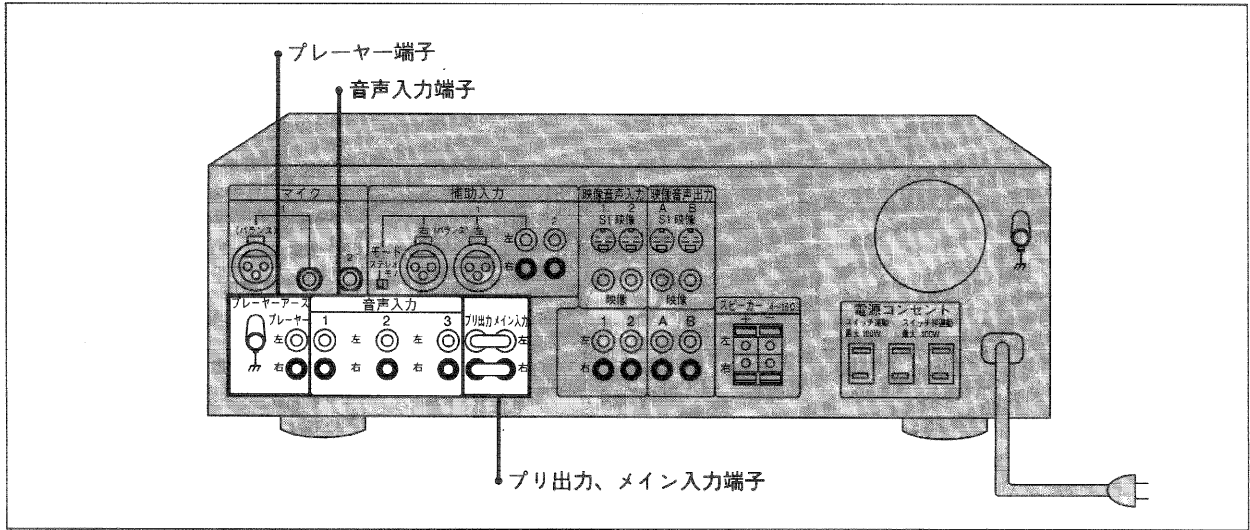


- ① 電源スイッチ／ランプ(電源)
(9ページ)
- ② 音質調整つまみ(音質調整 低音、高音)
(11ページ)
- ③ 左右音量バランス調整つまみ(バランス)
(11ページ)
- ④ 主音量調整つまみ(主音量)
すべての入力ソースの音量を調整します。(ただしヘッドホンの音量は変化しません。)(9ページ)
- ⑤ 音量調整つまみ(音量)
入力切換ボタンで選んだソースの音量を調整します。
(9ページ)
- ⑥ 入力切換ボタン
本機後面のプレーヤー端子、音声入力端子および映像音声入力端子に接続したソースの入力を切り換えます。
(9ページ)
- ⑦ ヘッドホン端子(ヘッドホン)
(11ページ)
- ⑧ ヘッドホン音量調整つまみ(ヘッドホン音量)
(11ページ)
- ⑨ 再生モード切換ボタン(モード)
モノラル機器を再生するとき使用します。
(11ページ)
- ⑩ ミューティングボタン(ミュート)
一時的に音量を下げる时使用します。
(11ページ)
- ⑪ 補助入力音量調整つまみ(補助入力 音量1,2)
本機後面の補助入力端子に接続したソースの音量を調整します。(9ページ)
- ⑫ マイク音量調整つまみ(マイク音量1,2)
(9ページ)
- ⑬ マイク端子(マイク1,2)
(6ページ)

接続のしかた

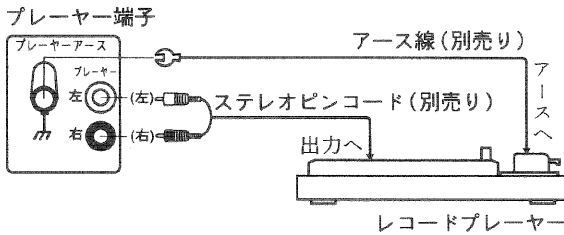
接続時には、本機および各機器の電源を切ってください。

各入力端子とミキシングの関係については、ブロックダイアグラム(12ページ)をご参照ください。

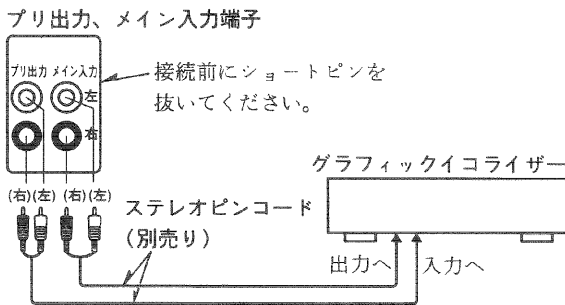


オーディオ機器を接続するには

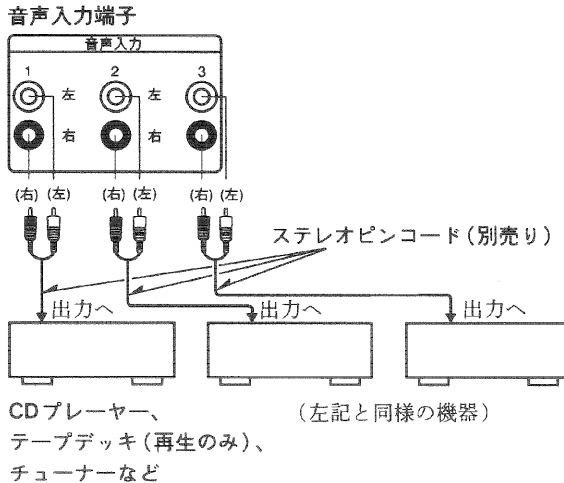
レコードプレーヤー



グラフィックイコライザー



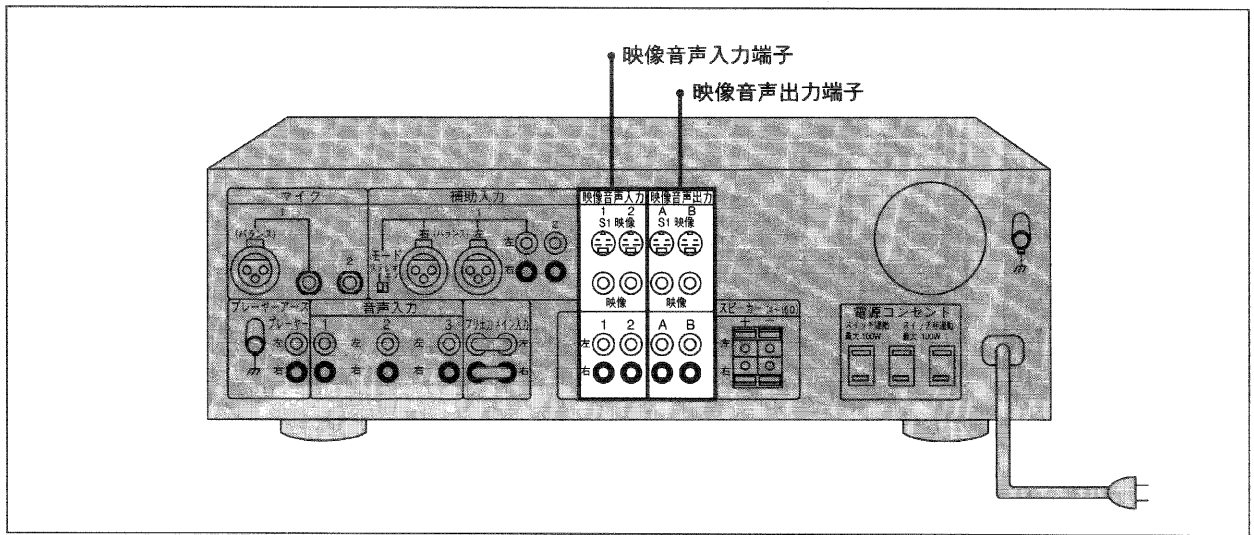
再生用オーディオ機器(レコードプレーヤー以外)



ご注意:
プリ出力、メイン入力端子を使用しないときは、必ずショートピンを差し込んでおいてください。

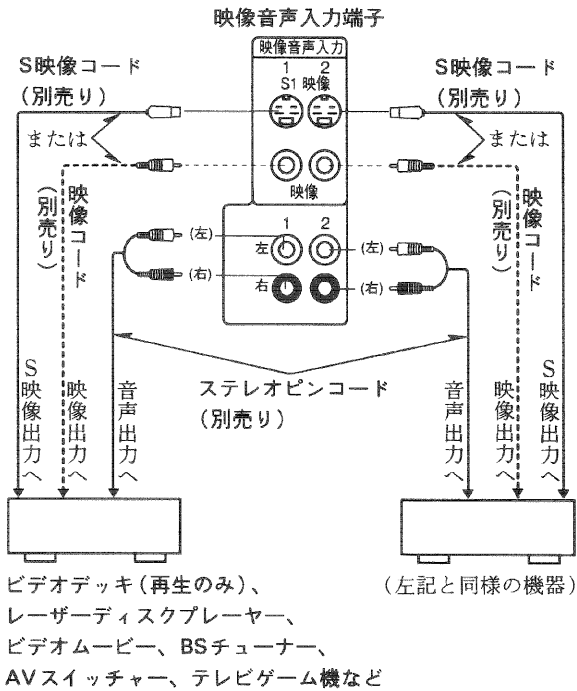
■再生用オーディオ機器を追加する場合は補助入力端子に2台目のCDプレーヤーなどを接続することができます。くわしくは、7ページをご覧ください。

ステレオピンコードの接続は

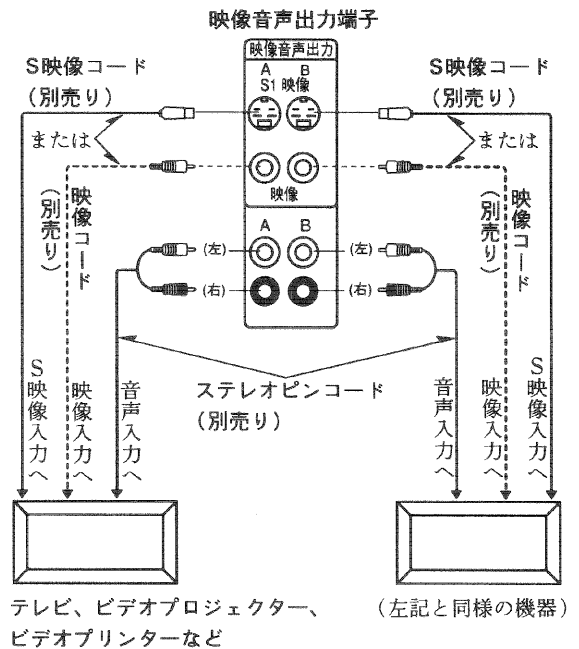


映像機器を接続するには

入力用映像機器



出力用映像機器



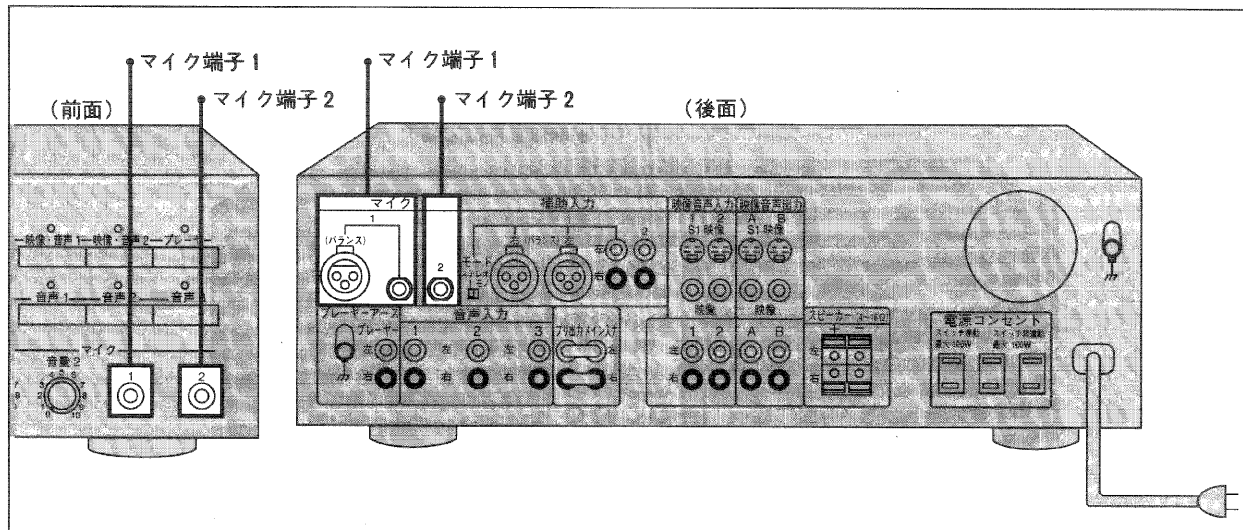
ご注意:

本機は再生機器の接続専用設計に設計されていますので、出力端子に録音機器を接続すると異常を生じる場合があります。

ご参考:

本機のS映像端子は、アスペクト比識別信号に対応したS1映像規格になっています。

接続のしかた (つづき)



マイクを接続するには

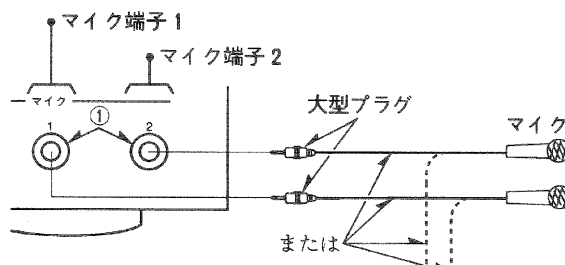
マイク入力は2系統、端子は全部で5個あり、下記の構成になっています。(右図ご参照)

マイク入力端子の構成と動作優先順位	
マイク1	①前面大型マイク端子 ②後面大型マイク端子 ③後面キャノンタイプ端子
マイク2	①前面大型マイク端子 ②後面大型マイク端子

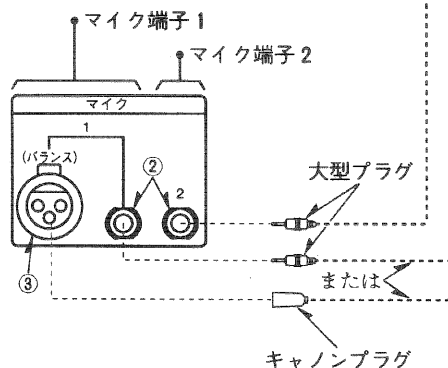
- マイク1、マイク2とも1度に使用できるマイクは各1本ずつです。数字(①、②、③)は同時に接続した場合に優先される端子の順位を表しています。
- マイク1とマイク2とは独立していますので、2本のマイクが同時に使用できます。

以上の条件をご参照の上、使用方法や使用場所、またプラグのタイプなどに応じ適当な端子に接続してください。(例えば、マイクをたびたび抜き差しする場合は前面の端子を使うなど)

(前面)

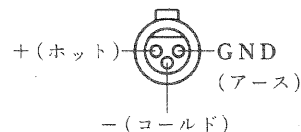


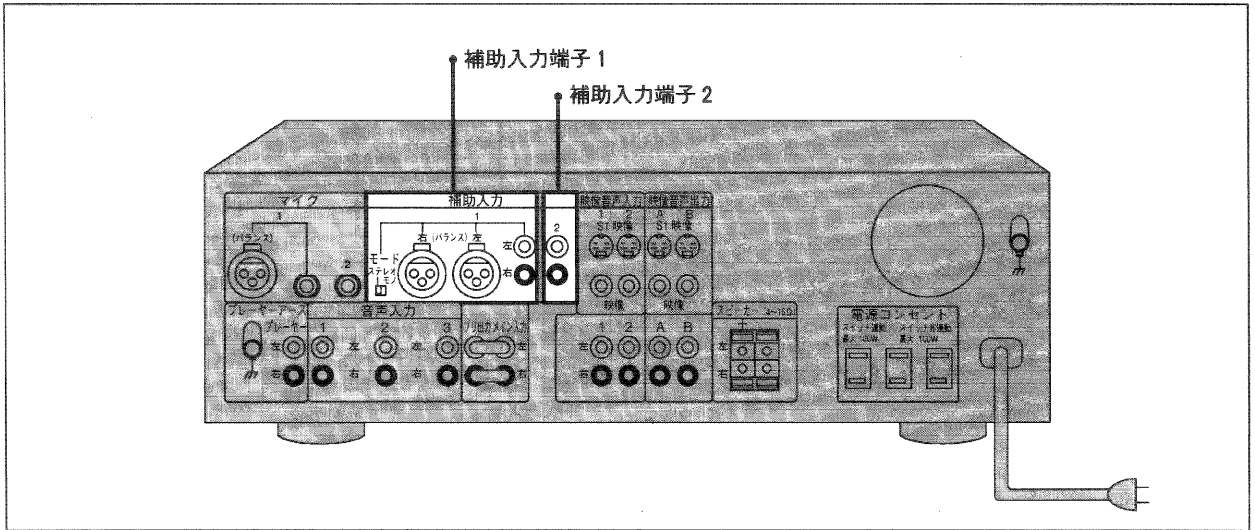
(後面)



■キャノンタイプ端子
について

[入力端子図]





補助入力端子を使うには

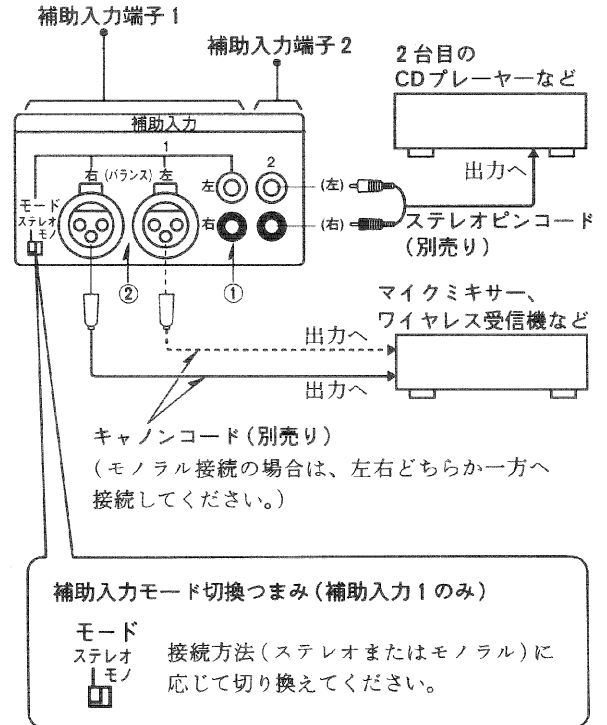
以下のような使い方ができます。

1. マイクミキサーやワイヤレス受信機を接続することで、マイク入力システムを追加する。(マイクそのものは接続できません。)
2. 2台目のCDプレーヤーなどオーディオ機器を追加する。(映像出力と同時に再生することで、BGVを行うこともできます。)

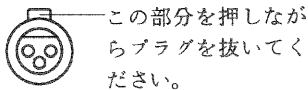
補助入力は2系統、端子は全部で3個あり、下記の構成になっています。(右図ご参照)

補助入力端子の構成		
補助入力 1	①ピンジャック端子 ②キャノンタイプ端子	①、②は端子の動作優先順位
補助入力 2	ピンジャック端子	

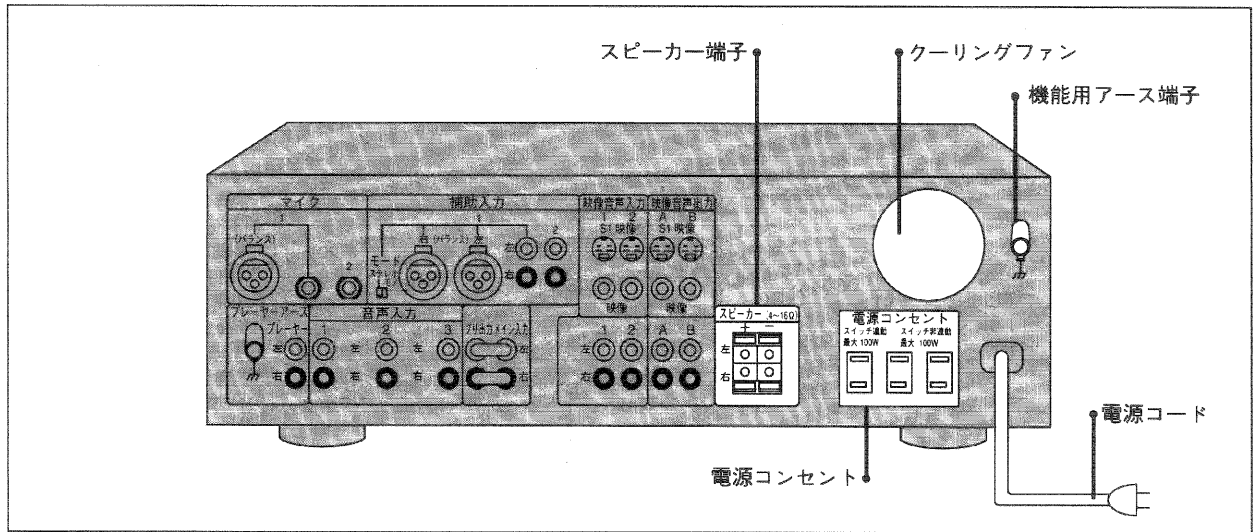
- 補助入力1は端子①、②とも接続できますが、同時には使用できません。(端子①が優先されます。)



キャノンプラグを抜くには

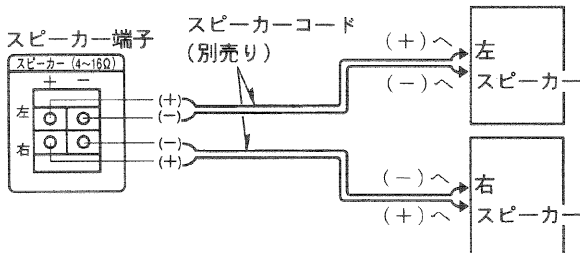


接続のしかた (つづき)



スピーカーを接続するには

4~16Ωのスピーカーが1組接続できます。
本機とスピーカーの端子の(左)(右)、(+)(-)を確認して正しく接続してください。

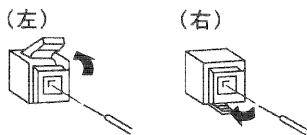


■スピーカーコードのつなぎ方

①表皮をむき、芯線をよじる。
15 mm



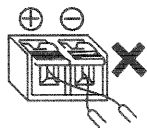
②芯線を差し込む。



③レバーを戻し、コードを軽く引っ張って抜けないことを確認する。

ご注意：

- 回路の破損を防止するため、スピーカーコードの(+), (-)は絶対にショートさせないでください。
- スピーカーの許容入力値をご確認の上、スピーカーに過大な信号が入らないよう、注意して音量を調整してください。

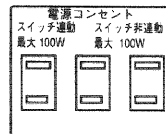


電源コードを接続するには

最後に接続します。
家庭用電源(AC100V)に接続してください。

電源コンセントについて

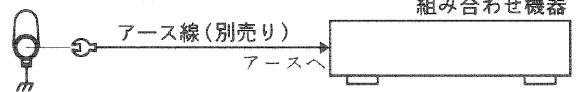
オーディオ機器専用です。表示電力以下でご使用ください。
スイッチ連動：本機の電源スイッチと連動しています。(最大100Wまで)
スイッチ非連動：本機の電源スイッチの入/切に関係なく使用できます。(2つ合計で最大100Wまで。)



機能用アース端子について

アース端子付きの機器と組合わせた場合に使用できます。
各機器を設置接続した後、電源を入れたときにハム音が出るようでしたら、本機と他の機器のアース端子をアース線(別売り)で接続してください。

機能用アース端子

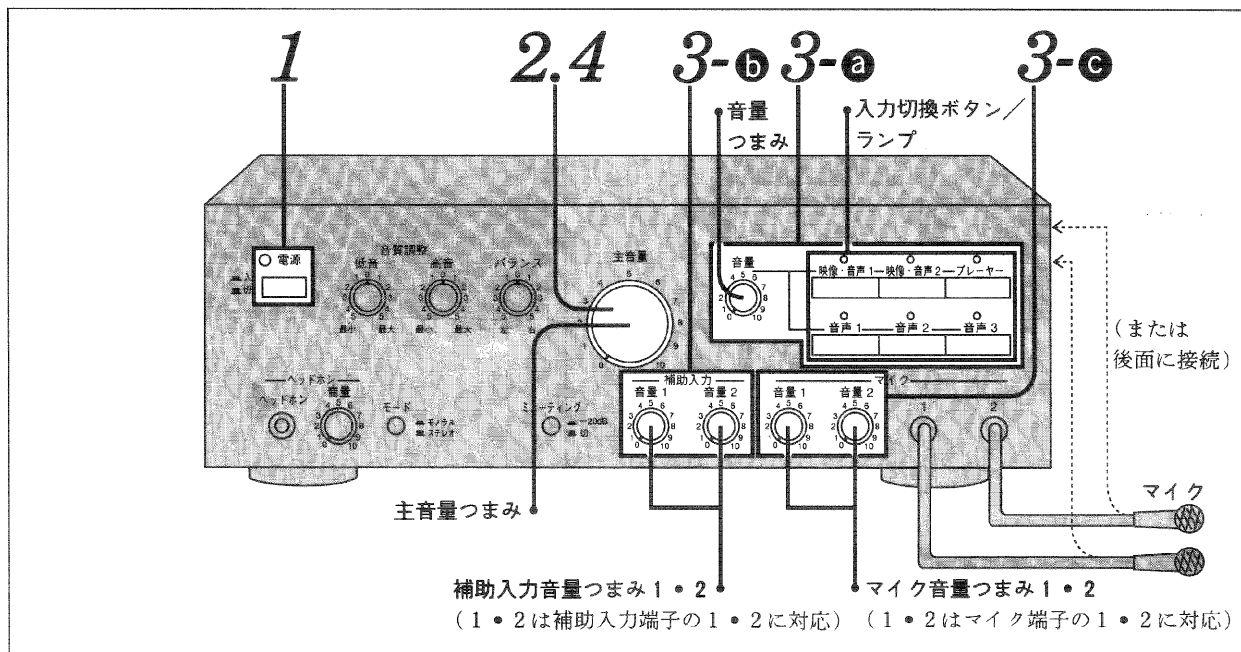


クーリングファンについて

通常は低速で、アンプ内部の温度が上昇すると高速で回転し、温度の上がりすぎを防止します。吹き出し口をふさがないようにしてください。

操作のしかた

操作の前に、各音量つまみ(主音量、音量、補助入力音量1・2、マイク音量1・2)を“0”にしてください。



ソースの音や映像を出すには

- 1 「電源」スイッチを“入”にする
(電源ランプが点灯)
- 2 主音量つまみを“5”に合わせる
- 3 ソースを選び音や映像を出す

a オーディオ、映像ソースの場合
(プレーヤー、音声入力1・2・3、映像音声入力1・2の各端子に接続したソース)

1. 入力切換ボタンで再生するソースを選ぶ。
ソースを接続した端子に対応する表示のボタンを押してください。(ボタン上のランプが点灯)
• 映像ソースの場合は、テレビなど出力用機器の準備(電源入れ、入力切り換えなど)も行ってください。
2. ソースを再生する。
3. 音量つまみを回して好みの音量にする
(“5”まで上げて音量が足りない場合は下記手順4へ)

b 補助入力端子に接続したソースの場合

1. ソースを再生し(あるいはマイクミキサーなどに音声を入れながら)、
2. 補助入力音量つまみ(1または2)を回して好みの音量にする。(“5”まで上げて音量が足りない場合は下記手順4へ)

c マイクの場合

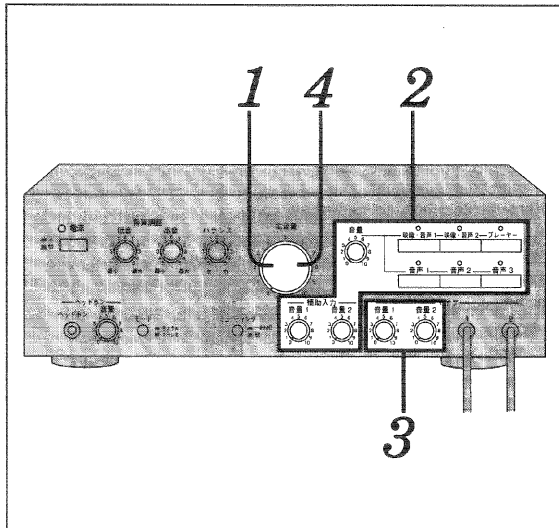
1. マイクに音声を入れながら、
2. マイク音量つまみ(1または2)を回して好みの音量にする。(“7”まで上げて音量が足りない場合は下記手順4へ)

ご注意：誤操作を防ぐため、使用しない音量つまみはすべて“0”にしておいてください。

4 主音量つまみで不足分の音量を補う

ご注意：テレビなど出力用機器から出る音の量は主音量つまみでは調整できません。出力用機器側で調整してください。

操作のしかた (つづき)



マイクミキシングをするには

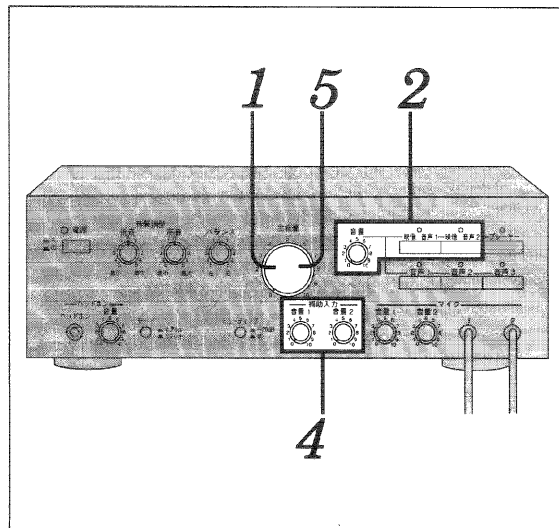
- 1 主音量つまみを“5”に合わせる
- 2 好みのソースの音を出す
(9ページの3-㉓、3-㉔ご参照)
ミキシング時の音量は最後に主音量つまみで調整します。ここではあまり大きくしないでください。
- 3 マイクに音声を入れながら、マイク音量を調整し、ソースの音とのバランスをとる
- 4 主音量つまみで全体の音量を調整する

■マイクミキサー(またはワイヤレス受信機)を補助入力端子に接続している場合は
上記のマイクミキシングに、別のマイク音声を追加することができます。

ソース音とマイク音のバランスをとった後、マイクミキサーに音声を入れながら補助入力音量1のつまみを回し、他の音とのバランスを調整してください。

ご使用後は：

ソース音とマイク音のミキシングバランスを維持しておく場合は、主音量つまみだけを“0”にしてから電源を切るようにしてください。



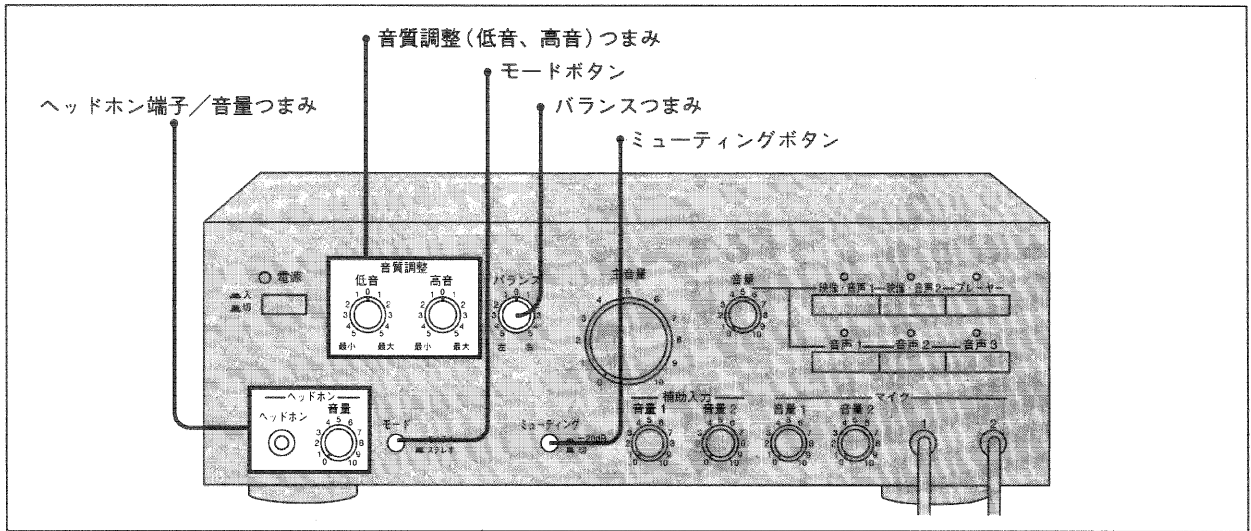
B.G.V(バック・グラウンド・ビジュアル)を行うには

好みの音楽に好みの映像を組み合わせて再生することができます。
(後面の補助入力端子にCDプレーヤーなどのオーディオ機器を接続してください。)

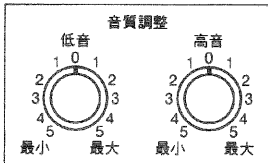
- 1 主音量つまみを“5”に合わせる
- 2 入力切換ボタンで映像ソース(映像・音声1または2)を選ぶ
このとき音量つまみ(入力切換ボタン側)は“0”にしてください。
- 3 映像ソースを再生し、テレビなどに映像を出す
- 4 補助入力端子に接続したオーディオソースを再生し、補助入力音量を上げる。
 (“5”まで上げて音量が足りないときは下記手順5へ)
- 5 主音量つまみで不足分の音量を補う

ご注意：

マイクを抜き差しするときは、必ずマイク音量つまみを“0”にしてください。

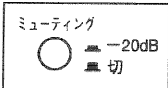


音質を調整するには



音質調整(低音、高音)つまみで、低音域、高音域それぞれの音量を調整する

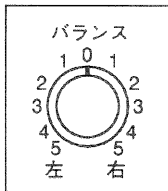
一時的に音量を下げるには



「ミュート」ボタンを「**-20 dB**」にする

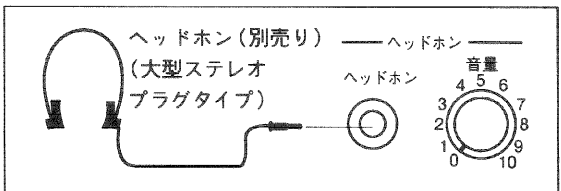
元の音量に戻すときは、再度押してください。

左右の音量バランスを調整するには

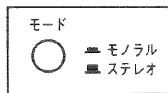


バランスつまみで調整する

ヘッドホンで聞くには



モノラル機器を再生するときは



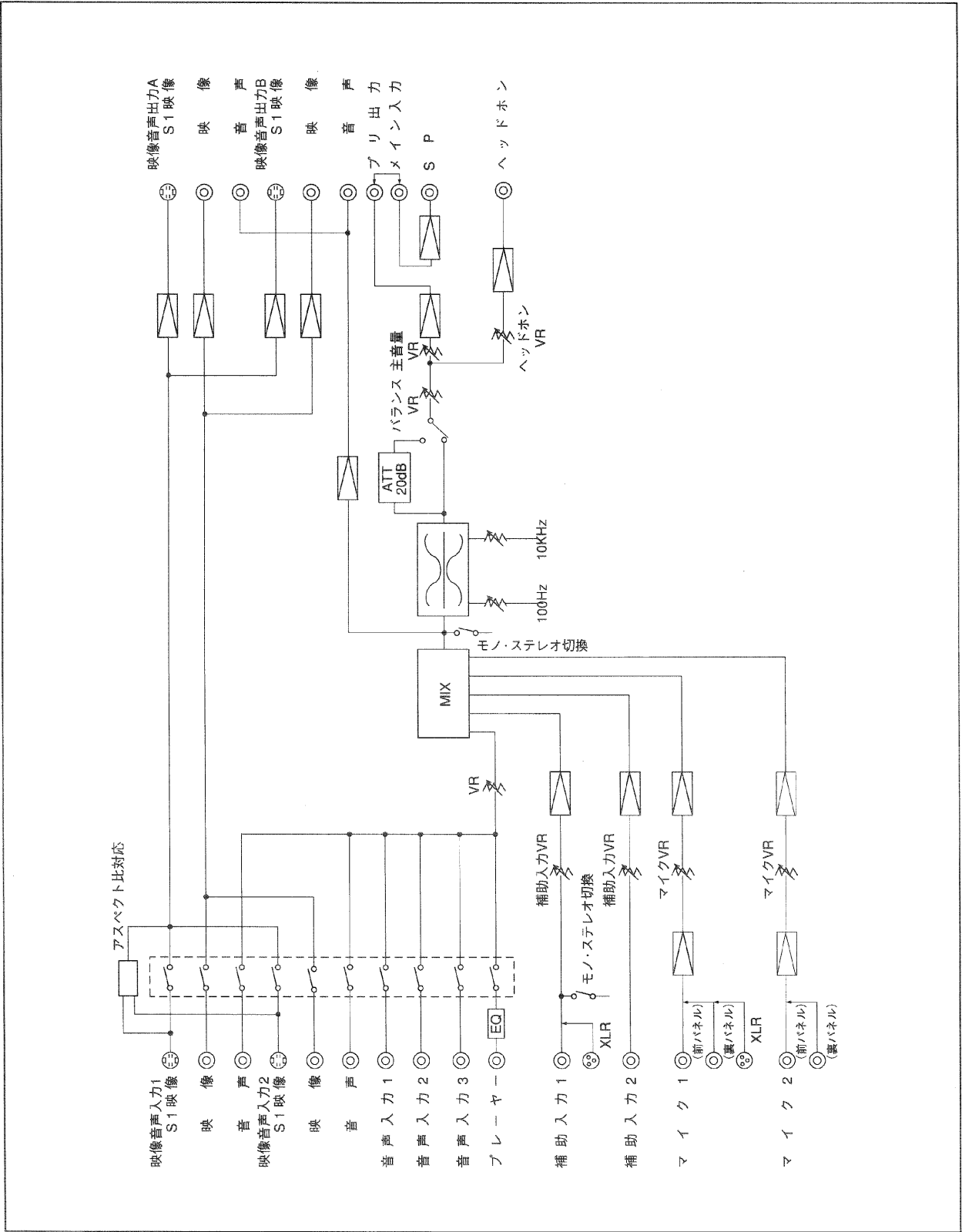
モードボタンを「**モノラル**」にする

LまたはRの端子から入力した信号が、左右から同じ音で出力されます。

ステレオに戻すときは、再度押してください。

- ヘッドホンは、必ずヘッドホン音量つまみを“0”にしてから接続し、その後徐々に音量を上げてください。(ヘッドホンの音量は、主音量以外の各音量調整[音量、補助入力音量、マイク音量]やミュートの操作によっても変化します。)
- スピーカーから音を出さない場合は、主音量調整つまみを“0”にしてください。
- 耳を刺激するような大きな音量で長時間聞くことは避けてください。

ブロックダイアグラム



定 格

■オーディオ部 (*0 dBu=0.775 V)

定格出力	80 W+80 W (EIAJ, 1 kHz, THD 10%, 4 Ω) 60 W+60 W (EIAJ, 1 kHz, THD 10%, 6 Ω)
全高調波歪率	0.1% (1 kHz, 定格出力-3 dB, 6 Ω)
ダンピングファクター	50 (6 Ω)
負荷インピーダンス	4~16 Ω
周波数特性	
プレーヤー	RIAAカーブ ±1 dB
音声1、2、3・映像音声1、2・補助入力1、2	20 Hz~20 kHz (+0 dB, -1 dB)
入力感度/入力インピーダンス	
プレーヤー	-52 dBu/45 kΩ
音声1、2、3・映像音声1、2	-12 dBu/22 kΩ
補助入力1、2・補助入力1 バランス	-12 dBu/15 kΩ
マイク1、2・マイク1 バランス	-58 dBu/10 kΩ
メイン入力	+2 dBu/22 kΩ
最大許容入力電圧(プリ出力、1 kHz THD 1%)	
プレーヤー	-22 dBu
音声1、2、3・映像音声1、2・補助入力1、2・補助入力1 バランス	+17.5 dBu
マイク1、2・マイク1 バランス	+4 dBu
SN比 (IHF A)	
プレーヤー	73 dB
音声1、2、3・映像音声1、2・補助入力1、2・補助入力1 バランス	90 dB
マイク1、2・マイク1 バランス	60 dB
音質調整	
低音	100 Hz +10 dB, -10 dB
高音	10 kHz +10 dB, -10 dB
定格出力電圧	
映像音声出力A、B	-12 dBu (10 kΩ負荷)
プリ出力	+2 dBu (10 kΩ負荷)
ヘッドホン出力	-9 dBu (8 Ω負荷)

■ビデオ部

定格入力電圧/入力インピーダンス	
映像音声1、2	1 Vp-p/75 Ω
定格出力電圧	
映像音声A,B	1 Vp-p (75 Ω負荷)

■S1ビデオ部

定格入力電圧/入力インピーダンス	
映像音声1、2のS1-Y端子	1 Vp-p/75 Ω
映像音声1、2のS1-C端子	0.286 Vp-p/75 Ω
出力電圧	
映像音声A,BのS1-Y端子	1 Vp-p (75 Ω負荷)
映像音声A,BのS1-C端子	0.286 Vp-p (75 Ω負荷)

■総 合

消費電力	110 W
電源	AC 100 V 50/60 Hz
最大寸法(幅×高さ×奥行)	430×140×330 mm
本体寸法(幅×高さ×奥行)	430×132×300 mm
重量	8.8 kg

- 注) 1. この定格は、性能向上のため変更することがあります。
2. 全高調波ひずみ率は、スペクトラムアナライザーによる10次高調波までの総和です。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めたりヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。



音のエチケット
シンボルマーク

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

こんなときは	ここをご確認ください	処置
電源を入れ、ソースの再生を始めても音や映像がない。	入力切換ボタンは正しくセットされていますか。	• 正しくセットする。(P.9ページ)
	各入力ソースに対応した音量つまみが“0”になっていませんか。	• ソースに対応した音量つまみ(音量、補助入力音量またはマイク音量)を上げる。(P.9ページ)
	各機器と正しく接続されていますか。	• 正しく接続する。(P.4~8ページ)
左右の音が逆になる。	スピーカーを逆に接続していませんか。	
片方のスピーカーからしか音が出ない。	バランスつまみがどちらかに片寄っていませんか。	• 中央にもどす。(P.11ページ)
音量があまり大きくならない。	ミュートボタンが“-20 dB”になっていませんか。	• ボタンを“切”にする。(P.11ページ)
音がステレオにならない。	モードボタン(補助入力1の場合は、さらに後面の補助入力モード切換つまみ)が“モノ”になっていませんか。	• ボタン(つまみ)を“ステレオ”にする。(P.7,11ページ)

アフターサービスについて

保証書 (別に添付してあります。)

保証書は、必ず「お買い上げ日、販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのあと、大切に保存してください。

保証期間 —— お買い上げ日から1年間

修理を依頼されるとき

上記の「故障かな!?’に従って調べていただき、直らないときには必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

● 保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が出張修理をさせていただきます。

連絡していただきたい内容

- ご住所・ご氏名・電話番号
- 製品名・品番・お買い上げ日
- 故障または異常の内容(できるだけ詳しく)
- 訪問ご希望日

● 保証期間が過ぎているときは

お買い上げの販売店へご依頼ください。

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品(機能維持のために必要な部品)の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。

この期間は通商産業省の指導によるものです。

アフターサービスなどについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

お手入れ

柔らかい布でふいてください。汚れがひどいときは、水か石けん水を含ませた布でふき、後は乾いた布でふきとってください。

- アルコールやシンナーは使わないでください。
- 化学ぞうきんをご使用のときは、その説明をご覧ください。

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です。)

販売店名	電話 () —	お買い上げ日	年 月 日
お近くの当社 ご相談センター	電話 () —	品 番	SU-AV505Z

松下電器産業株式会社 オーディオ事業部
〒571 大阪府門真市松生町1番4号 電(06) 909-1021